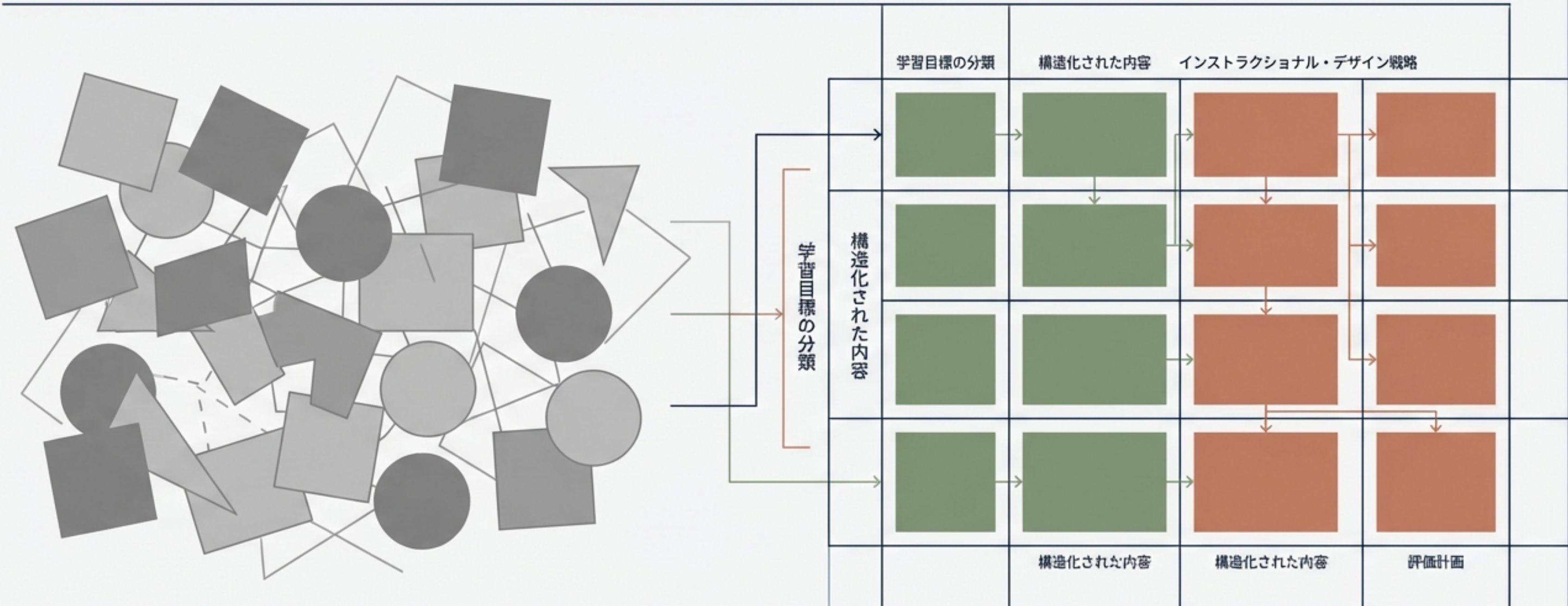


幼児教育コーディネーターの学習目標の分析

教育目標の構造化からインストラクショナル・デザインへ



第7講義資料に基づく体系的ガイド

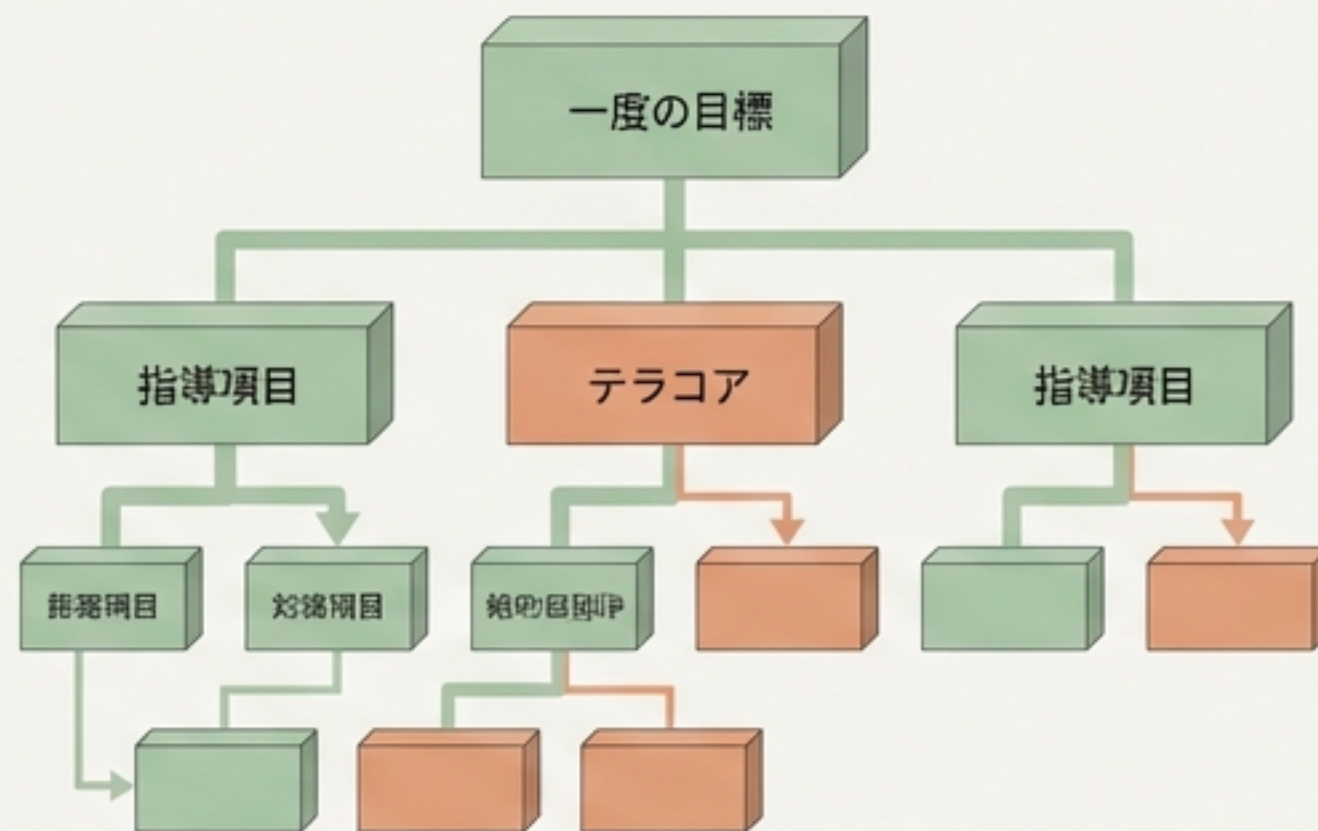
目標分析とは「目標の構造」を捉えること

平面的な目標 (Flat Objectives)



目標を羅列するだけでは構造は見えない。
評価規準や優先順位が不明確な状態。

構造化された目標 (Structured Objectives)



何を、どの順序で、何を使って教えるか？
要素を分類し、指導の流れを可視化した状態。

Insight: 目標 (School Goals) は不変だが、構造 (Structure) は「子どもの実態」に合わせて変化する。

教育目標の分類学：B.S.ブルームのアプローチ



基本メカニズム: 2次元マトリックス

目標をこのマトリックスに割り付けることで、構造的な偏りや抜け漏れを防ぐ。

Note: ブルームの提唱以降、各国の文化・風土に合ったタキソノミー（分類体系）の作成が推奨されている。

3つの領域と学習行動の段階性

認知的領域 (Cognitive)	情意的領域 (Affective)	心的運動的領域 (Psychomotor)
評価 (Evaluation)	個性化 (Characterization)	自然化 (Naturalization)
統合 (Synthesis)	組織化 (Organization)	分節化 (Articulation)
分析 (Analysis)	価値づけ (Valuing)	精密化 (Precision)
応用 (Application)	反応 (Responding)	巧妙化 (Manipulation)
理解 (Comprehension)	受け入れ (Receiving)	模倣 (Imitation)
知識 (Knowledge)		

各領域において、下位（基礎）から上位（発展）への段階性がある。

目標分析が生み出す教育的メリット



授業目標と評価観点の明確化

「何を教えるべきか」が曖昧になるのを防ぎ、焦点の定まった授業設計が可能になる。



「印象論」からの脱却

教師の主観的な「印象」ではなく、明確な基準に基づいた公正な評価が可能になる。



教師の指針

その授業における到達点を明確にし、指導のブレを防ぐガイドラインとなる。

授業の構造：システムズ・アプローチ

1970年代：教育を「システム」として捉える転換点



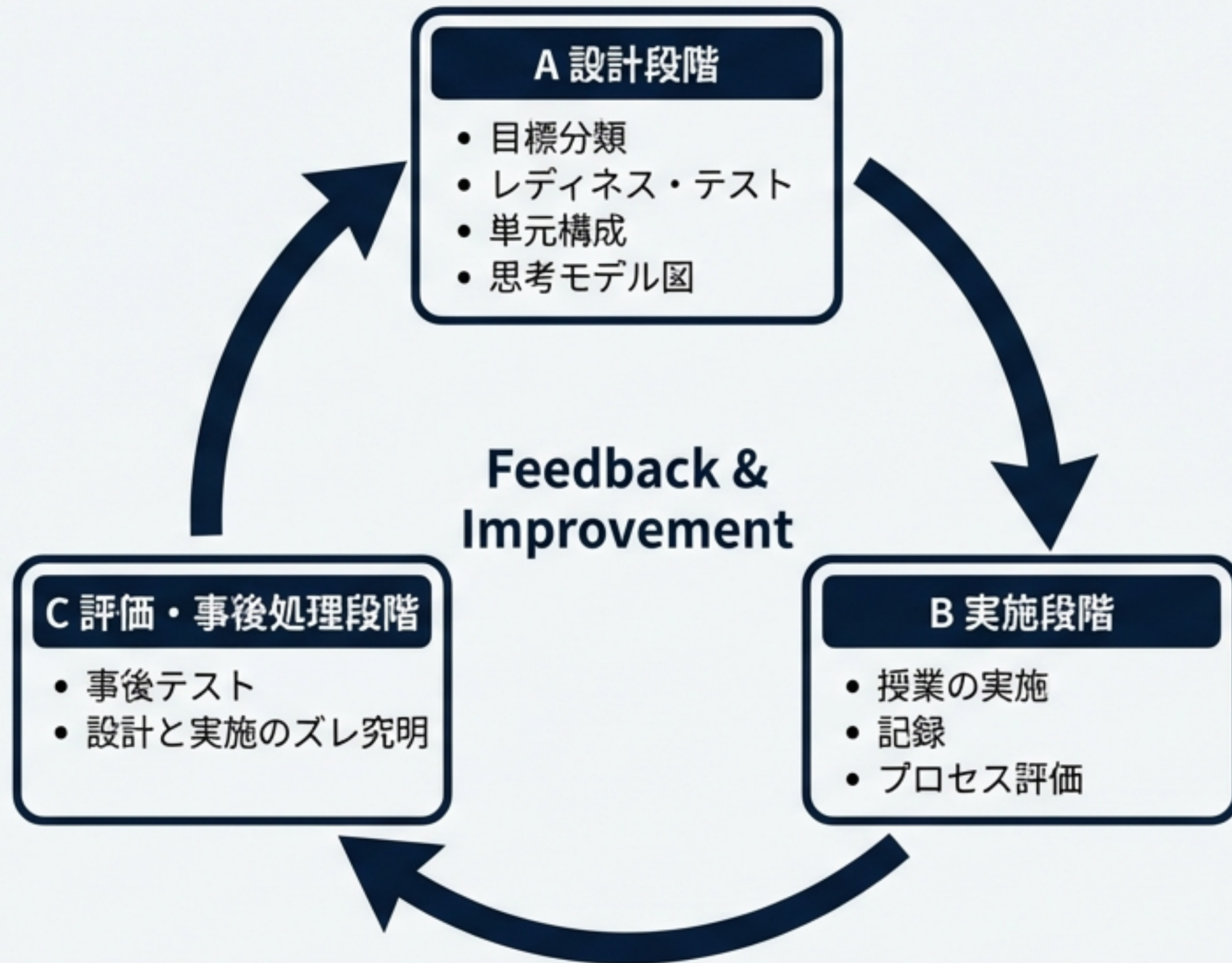
水越（1975）

発見学習における概念構造の記述。
内容を要素に分け、関係性（上位・
下位、順序）を分析する。

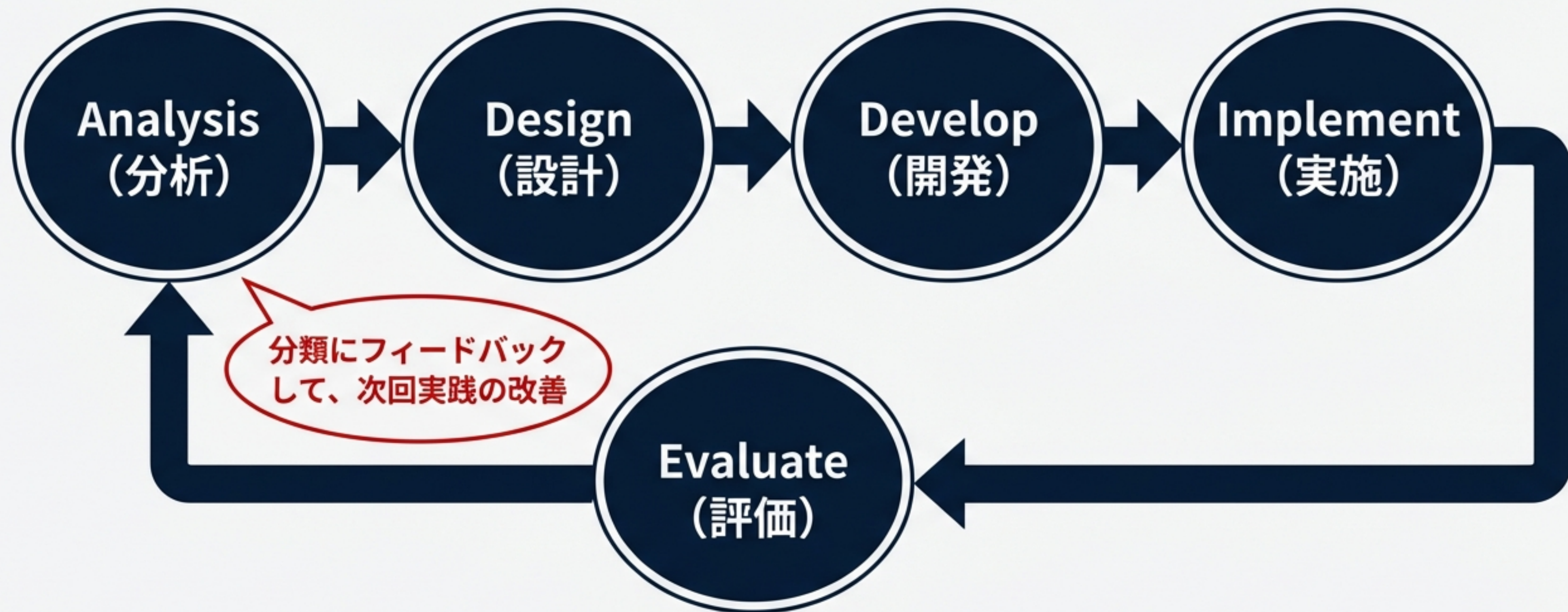
坂元（1976）

「教材の次元分け」。学習者のつま
ずきずきや誤概念を予測し、目標へ
のルートを整備する。

水越による授業研究のサイクル



IDプロセスモデル：ADDIEモデル



ADDIE詳細：分析と設計

A: Analysis（分析フェーズ）

教育ニーズの明確化。「学習によって人をどう変えたいか」を設定する。

- 対象者の設定（Target Audience）
- 目標の設定（Goals: e.g., 友達に説明できる）
- 評価基準の設定（Criteria）

D: Design（設計フェーズ）

目標達成に向けた青写真（カリキュラム）を描く。

- 学習期間の決定
- 教授方略の策定（Instructional Strategy based on goal type）

ADDIE詳細：開発・実施・評価

D: Develop (開発フェーズ)



分析・設計に基づき、実際に学習教材を作成する。事前のスペックより通りに作ることが重要。

I: Implement (実施フェーズ)



学習環境を整え、実際に授業を行う。

E: Evaluate (評価フェーズ)



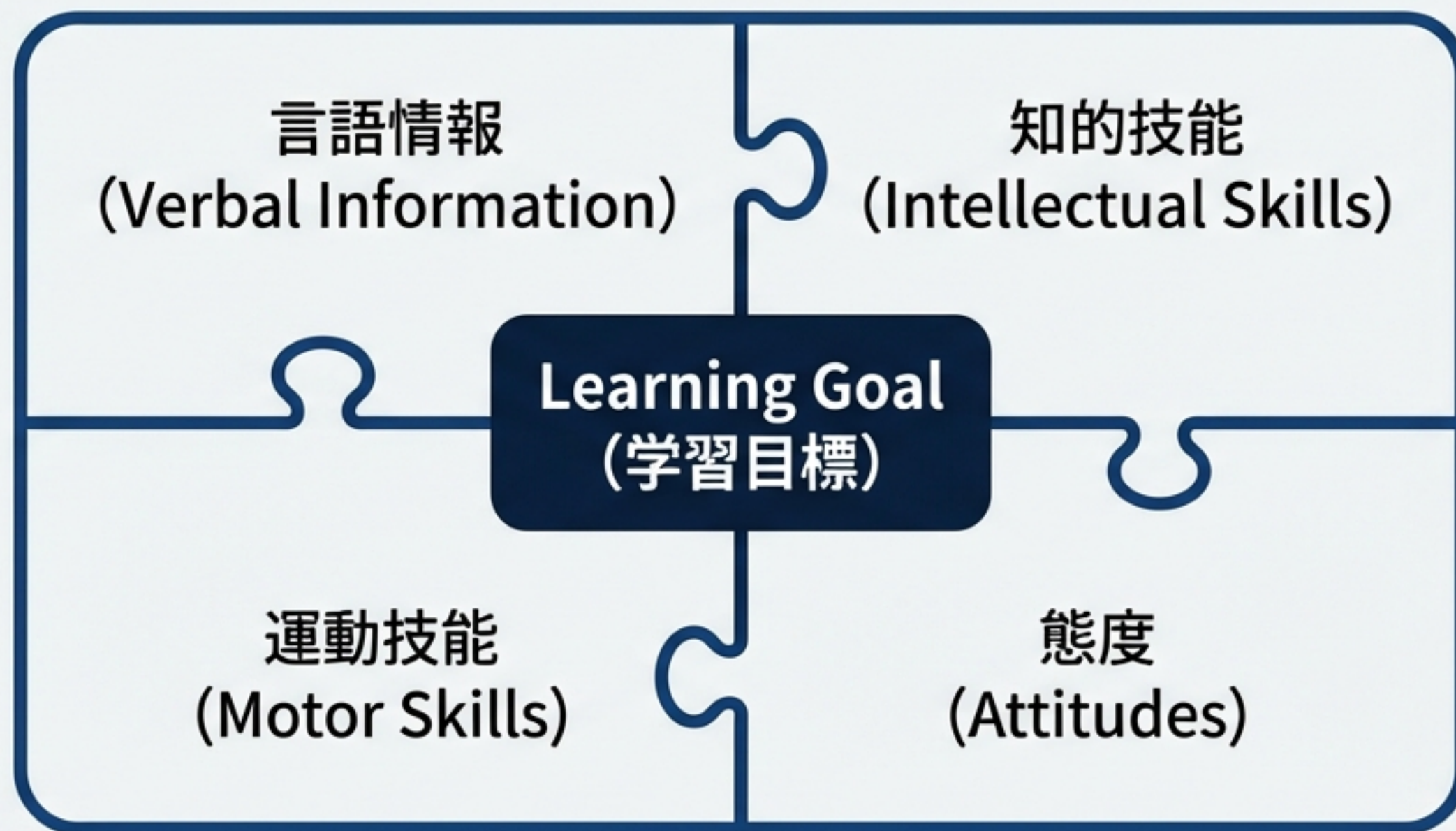
目標をクリアしたか測定する。

Feedback Loop

目標未達の場合、分析フェーズに戻りカリキュラムや対象を見直す。

教材の構造：課題分析（Task Analysis）

学習目標をマスターするために必要な「要素」と「関係」を明らかにする



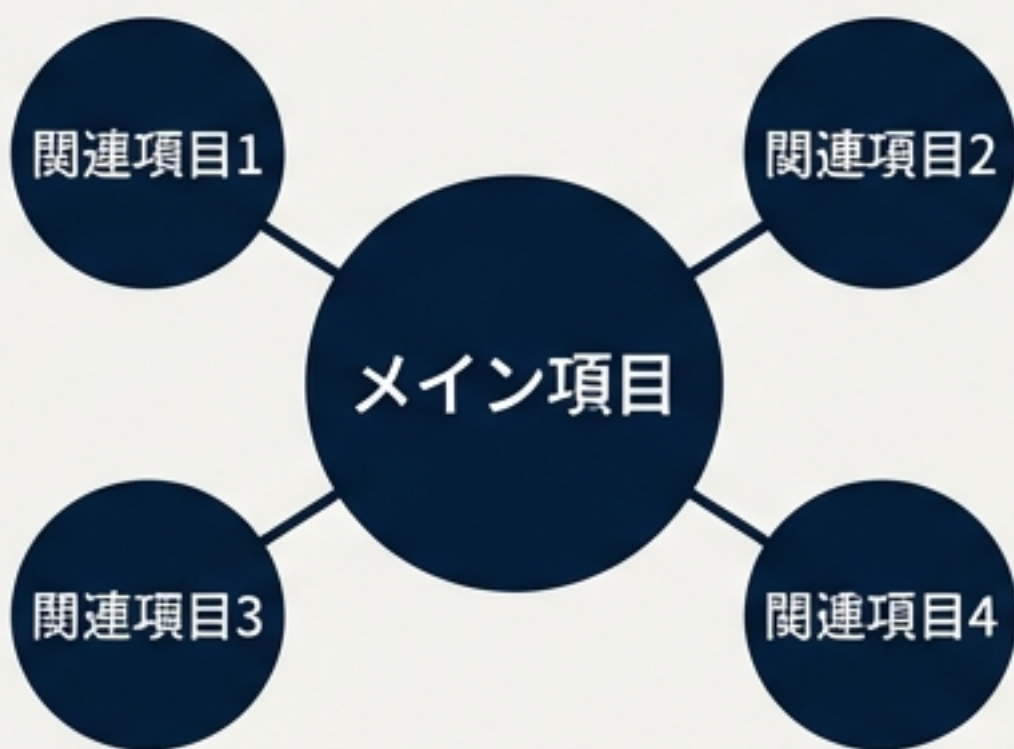
課題の種類によって、適切な分析手法が異なる。

課題分析の手法 ①

クラスター分析 (Cluster)

【かたまり型】

対象：言語情報 (Verbal Info)

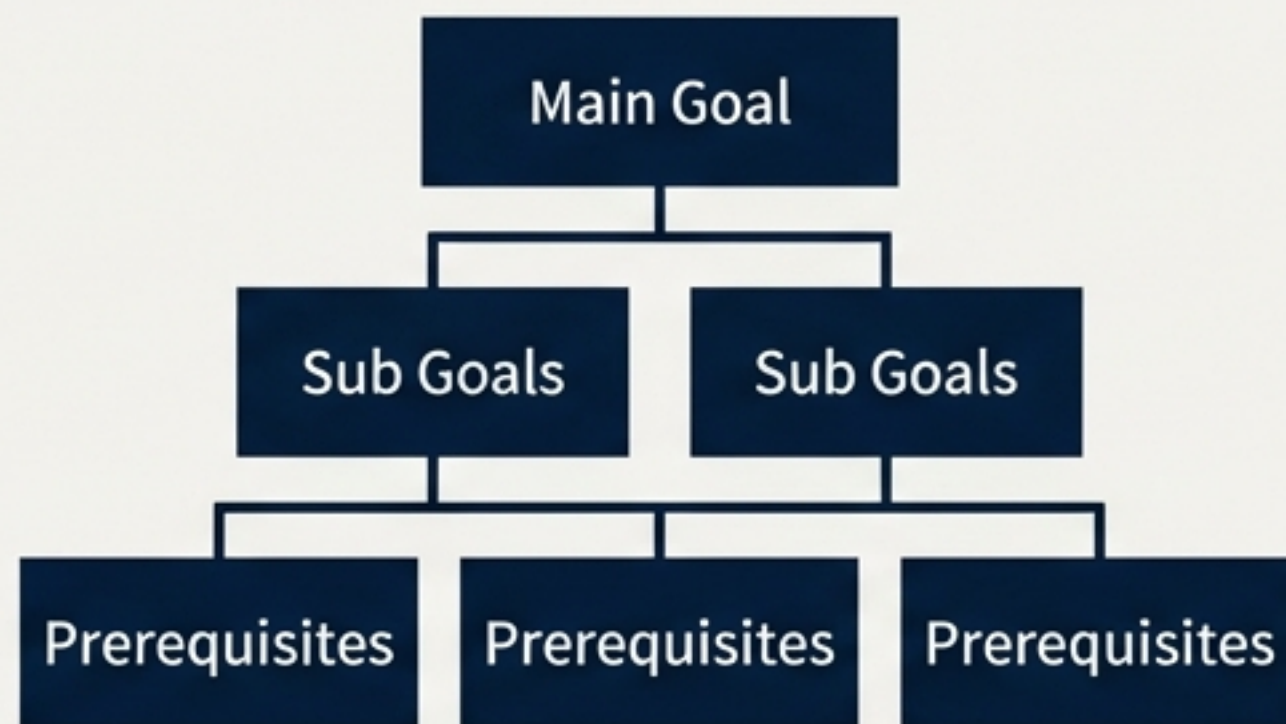


関連ある項目や紛らわしい項目をグループ化して暗記効率を高める。
上下関係は必須ではない。

階層分析 (Hierarchy)

【ピラミッド型】

対象：知的技能 (Intellectual Skills)



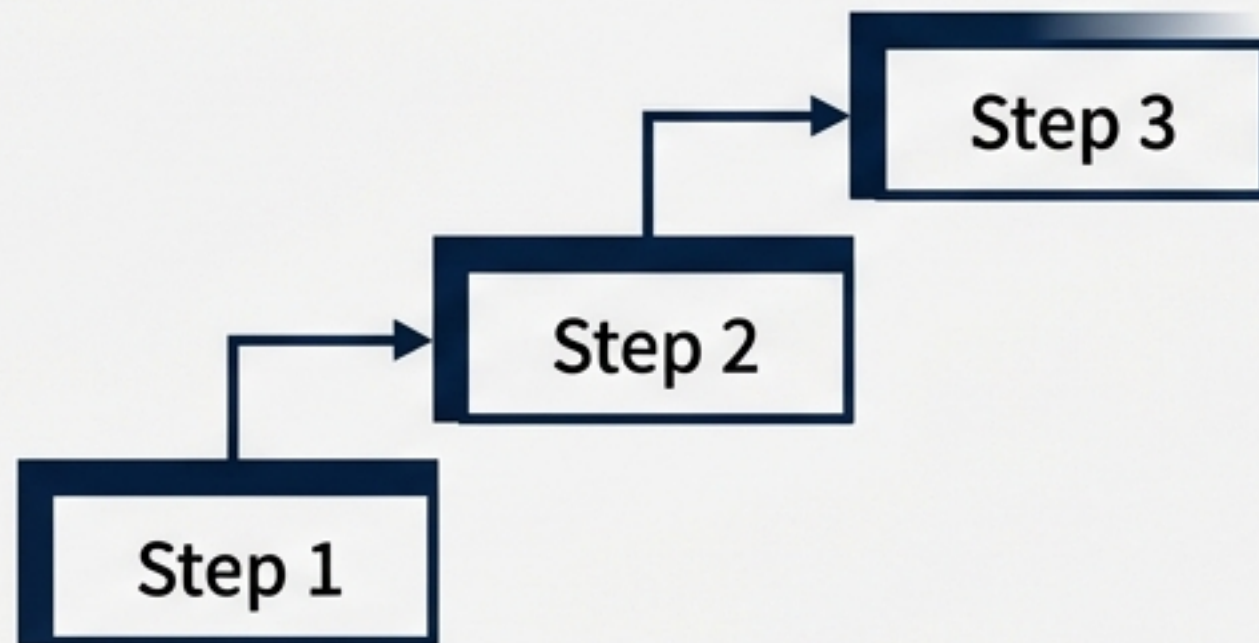
上位目標を達成するために必要な「前提条件（下位目標）」を掘り下げる。

課題分析の手法 ②

手順分析 (Procedural)

【ステップ型】

対象：運動技能 (Motor Skills)



技能を練習可能なステップに分解する。
(各ステップに知的技能が必要な場合もある)

階層・手順分析 (Compound)

【複合型】

対象：態度 (Attitudes)



目標とする「気持ち」に関連する知識や技能を見つける。「なぜその選択をしたか？」を問うことで分析する。

実践的適用：分析の視点

Topic 1: Media Influence

自分がメディアの影響を「受ける場面」と「受けない場面」を分析し、その差を説明する。

Topic 2: CM Analysis

印象に残るCMを選び、制作者の意図（視聴者をどう惹きつけたか）とメディア特性の利用法を分析する。

Topic 3: Internet Materials

Web教材を調査し、その有効性を5段階評価する。なぜその評価になったのか、要因を論理的に説明する。

結論：コーディネータとしての役割



学校の目標は変わらないが、構造は目の前の子どもによって変わる。
コーディネータの役割は、教材研究と児童理解を通じて、
最適な「目標の構造」をデザインすることである。